

【台湾】

9-10月の市場動向トピックス

- 2021年9月の訪日台湾人数は、対2019年同月比99.9%減の400人であった。
- 2021年10月の訪日台湾人数は、対2019年同月比99.9%減の400人であった。
- 9・10月も、COVID-19の拡大により、訪日者数はコロナ禍以前の2019年同月を大幅に下回った。日本政府による査証免除措置停止の対象となっており観光渡航はできない状況。上陸時にはPCR検査が求められる。国際的な人の往来再開に向けた段階的措置として、2020年9月8日から「レジデンストラック」が運用されていたが、2021年1月14日以降運用が停止されている。台湾域内のコロナ警戒レベル(4段階中4が最も厳格)は引き続き第2級を維持。外出時マスク着用、実名登録制、検温等基本措置は継続となるものの、感染収束傾向から集会人数の上限撤廃など段階的に規制緩和が進んでいる。

9-10月の主なプロモーション活動

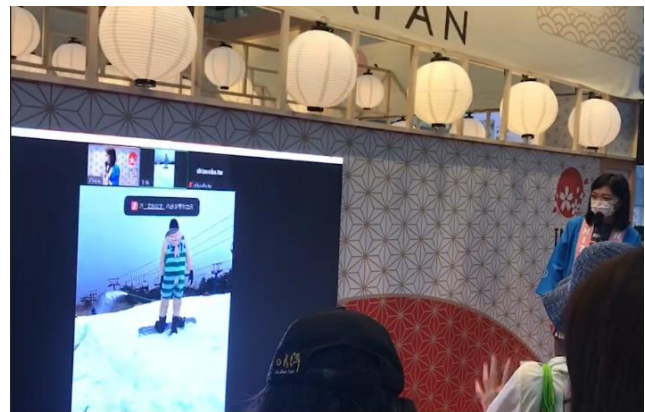
- ★ 10月22～25日に開催された台中国際旅行展覧会(ATTA)にビジット・ジャパン(VJ)ブースを出展。コロナの影響で博覧会の規模は大幅な縮小となったものの、振興五倍券(*)需要取り込みに向けた台湾域内旅行PRのブースを中心に、昨年の約7.8万人を大きく上回る約14万人の来場者が詰めかけた。日本からの出展は、JNTO含め昨年同様の3団体であったが、VJブース来訪者数は4.7万人(昨年4.1万人)と増えており変わらぬ日本人気が窺えた。(*)個人消費促進のために発行される、観光を含む用途に使用可能なクーポン券。

VJブースでは、安全安心のPRはもちろんのこと、『日本旅行の予習』をテーマに食・癒し・アウトドア等様々なカテゴリーの体験コンテンツや、人気の観光列車について情報を発信。またブース内で抹茶パフォーマンスも実施し、高い人気を集めた。日本の各自治体・企業のステージパフォーマンスは、スキー場等日本からの生中継やギブアウェイ活用によるPRに多くの来場者が足を止めて見入っており、「日本らしさ体感/今の時期ならではの/日本製・実用的なノベルティ」が興味喚起のポイントとなっていた。

来場者からは、日台往来再開時期や周遊パス購入方法等、具体的な情報を求める質問が多く、早期の訪日実現への高い期待が感じられた。



ブース内で抹茶パフォーマンス



日本の各自治体・企業のステージイベント